

柏市における長寿社会のまちづくり と 今後のまちづくり施策

- 《 目次 》
1. 豊四季台プロジェクトの背景
 2. 多職種連携による在宅ケアシステム
 3. 生きがい就労の創成
 4. プロジェクトの成果を活かした今後のまちづくり

平成27年10月13日(火)
柏市 都市部 都市計画課 梅澤 貴義

1. 豊四季台プロジェクトの背景

柏市について

柏市は、東京都心から約30km圏内にあり、高度経済成長を機に人口が増加し発展したまち

**JR 柏駅から
上野駅まで約29分
東京駅まで約34分**

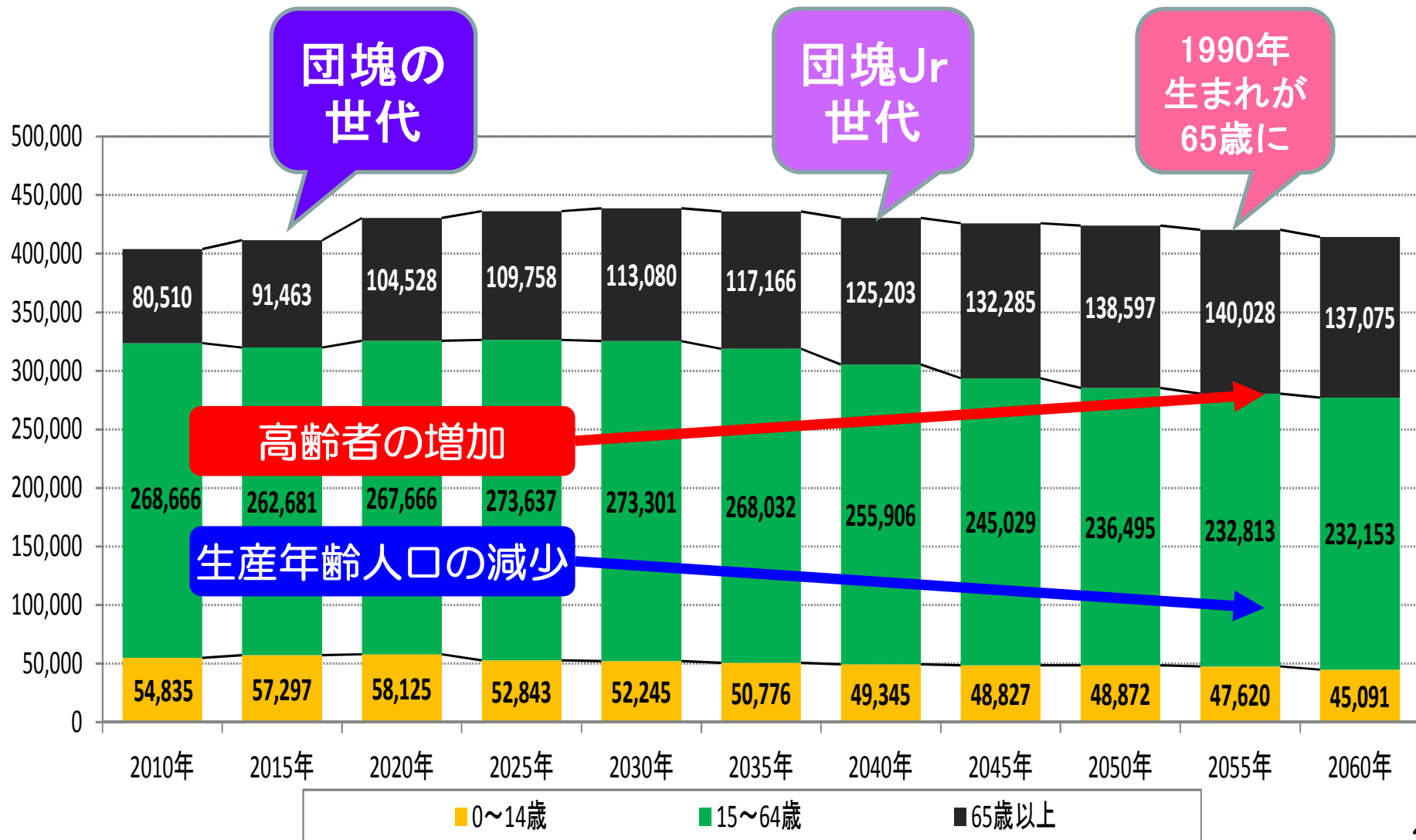


人口： 409, 447人
世帯： 171, 965世帯
(平成27年4月1日現在)

高齡化率： 23. 4%
介護保険認定率： 13. 9%
(平成26年10月1日現在)

柏市の人口推計（年齢3区分人口）

将来、人口減少の影響は少ないが、高齢者(特に75歳以上は2010年→2030年で2倍以上の伸び)の人口増加が予想されている。



柏市豊四季台地域高齢社会総合研究会を発足

「高齢社会の安心で豊かな暮らし方・まちのあり方」を
東京大学，UR都市機構，柏市の三者で議論し，実践していこう！



協定書締結の様子（2010年5月）

柏市



超高齢化に対応したまちづくりの具体化

東京大学高齢社会総合研究機構



システム・技術の研究・開発と世界への発信

都市再生機構



今後の団地のあり方の検証

- 2009(平成21)年6月 柏市，東京大学，UR都市機構の三者での研究会発足
- 2010(平成22)年5月 三者協定を結ぶ

【目指す姿】医療，介護，予防，住まい，生活支援サービスが一律的に提供され，
いつまでも住み慣れた地域で暮らすことができる社会

- 【実践】○ 医療，看護，介護が連携した24時間対応在宅ケアシステムの構築
- 元気高齢者が地域で活躍できる生きがい就労システムの構築

UR豊四季台団地の概要

入居開始：昭和39年度～

広さ：約32.6ha

建替前戸数：4,666戸(103棟)

当時人口：約1万人 ⇒ 現在:約6千人



2. 多職種連携による在宅ケアシステム 在宅医療を推進するための取り組み

(1) 在宅医療に対する負担を軽減するバックアップシステムの構築

- ① かかりつけ医のグループ形成によるバックアップ(主治医・副主治医制)
- ② 急性増悪時等における病院のバックアップ体制の確保(病診連携)

(2) 在宅医療を行う医師等の増加及び多職種連携の推進

- ① 在宅医療多職種連携研修の実施
→在宅医療を行う医師を増やし, 多職種連携を推進
- ② 訪問看護の充実強化
- ③ 医療職と介護職との連携強化

(3) 情報共有システムの構築

(4) 市民への啓発, 相談・支援

(5) 上記を実現する中核拠点(柏地域医療連携センター)の設置

(1) 在宅医療に対する負担を軽減するバックアップシステムの構築

① かかりつけ医のグループ形成によるバックアップ(主治医・副主治医制)

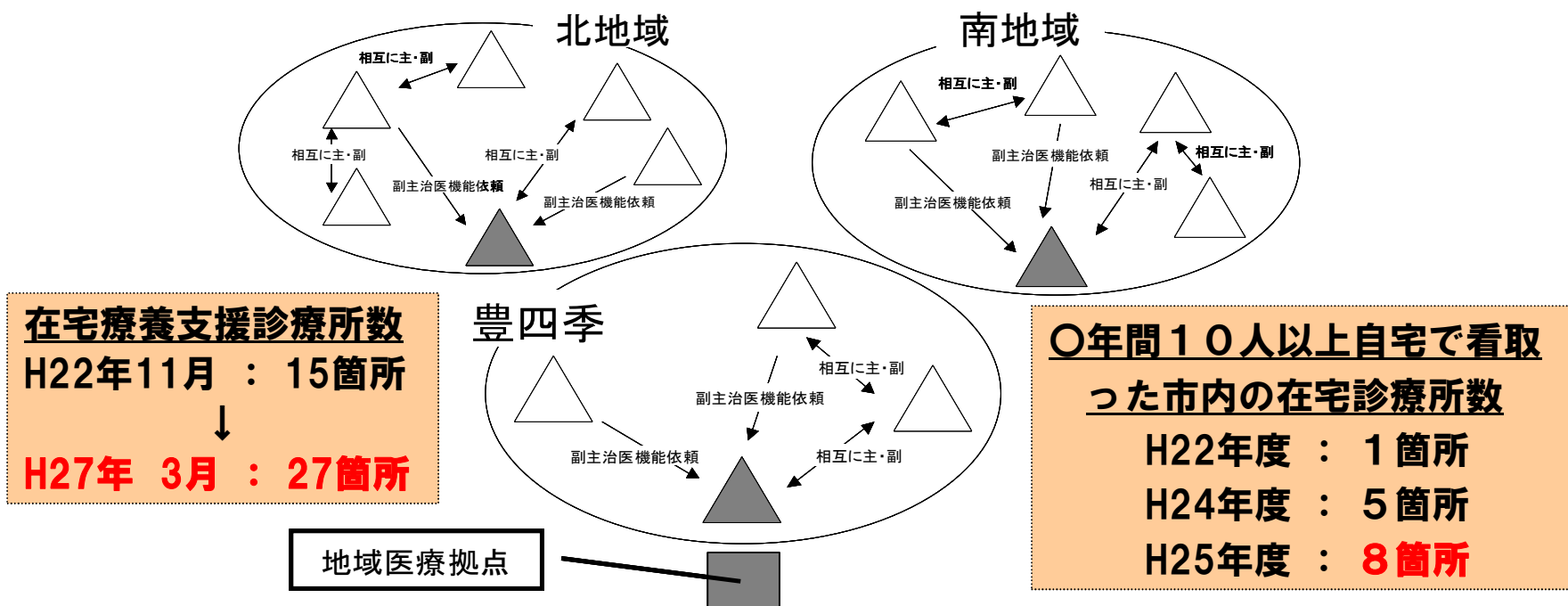
○ 共同で地域全体を支える体制の構築

→ 1つの診療所が数多くの患者を支えるだけでなく、多くの診療所が少しずつ支える事で多くの患者を支えるシステムを構築(「点」から「面」に)

○ 主治医・副主治医の仕組みの構築

→ 主治医(患者を主に訪問診療する医師)と副主治医(主治医が訪問診療できない時の訪問診療を補完する医師)とが相互に協力して患者に訪問診療を提供

△ : 主治医(可能な場合は副主治医) ▲ : 副主治医機能集中診療所 ■ : コーディネート等拠点事務局



(2) 在宅医療を行う医師等の増加と多職種連携

① 在宅医療多職種連携研修会

医師及び多職種を対象に在宅医療の
推進及び多職種連携の促進を目的とし
た研修を実施(年1回程度)

第6回(H26年9/28及び10/19)

受講者(57名)

医師・歯科医師・薬剤師・病院関係者・
訪問看護師・介護支援専門員・理学療法士・
作業療法士・地域包括支援センター職員・
管理栄養士・サービス事業所職員等

実施者

主催: 柏市医師会・柏市

共催: 柏歯科医師会・柏市薬剤師会・

柏市訪問看護連絡会・

柏市介護支援専門員協議会・

東葛北部在宅栄養士会・

柏市リハビリテーション連絡会

柏市介護サービス事業者協議会

協力: 東京大学高齢社会総合研究機構

東京大学医学部在宅医療学拠点

後援: 国立長寿医療研究センター

傍聴者(66名)

平成23年5月から6回実施これまでに
約300名(うち、医師50名)受講



主な内容(第6回)

2014年9月28日(日)

9:00~18:30

在宅医療の果たす
べき役割(総論)

多職種連携協働IPW

在宅医療を支える多
職種の役割(プレゼン)

多職種WS①
緩和ケア

各論

- ・ 摂食・嚥下障害
- ・ 在宅における口腔ケア
- ・ 在宅における褥瘡ケア
- ・ 在宅での栄養管理

特区の趣旨と概要
・ 訪問リハビリ

2014年10月19日(日)

9:00~17:00

柏市の医療介護連携モデル
病院とかかりつけ医の連携

多職種WS②
認知症

報酬・制度

多職種WS③
在宅療養における看
取り事例

多職種WS④
在宅医療を推進する
上での課題と解決策

修了者が語る
訪問診療の実際

目標設定

修了式

医師は別途同行訪問研修を実施

(3) 情報共有システムの構築



介護サービス

(4) 市民への啓発、相談・支援

各地域で市民を対象とした説明会・意見交換会を開催

①市民説明会・意見交換会

- 平成23年度:民生児童委員, ふるさと協議会等の役員を対象に, 計**4回**, **約200人**参加
- 平成24年度:ふるさと協議会・民生委員等を対象として計**63回**, **約1,600人**が参加
- 平成25年度:地区社協単位での勉強会や民生委員を対象に, 計**65回**, **2,081人**が参加
- 平成26年度:町会・サロン等からの依頼が増え, 計**69回**, **2,410人**が参加

②在宅ケア市民集会

- 平成23年2月から計**4回**実施, **延べ570人**が参加

各説明を聞いた市民の主な意見(抜粋)

期待	・家で最期を迎えたいと思っている人は多いので, 実現することを強く望みます。 ・かかりつけ医が最期まで診てくれるのは大変嬉しい
不安	・低所得者でも利用できるのか。 ・家族の負担を十分に軽減できる仕組みになるのか。



③情報誌「わがや」の発行、広報での啓発

- わがや:25年度から通算5回, 全戸配布(各**13万6,500部**)発行
- 広報:平成26年3月1日号広報かしわ1・2面で在宅医療特集

(5) 中核拠点（柏地域医療連携センター）の設置

柏地域医療連携センターの概要

- 柏市医師会・柏歯科医師会・柏市薬剤師会の共同で、柏市豊四季台団地の中心部に建設(2階建て:約1,000m²)
- 1階では柏市地域医療推進室が執務
- 地域医療の推進と多職種連携の拠点

平成26年4月に運営開始



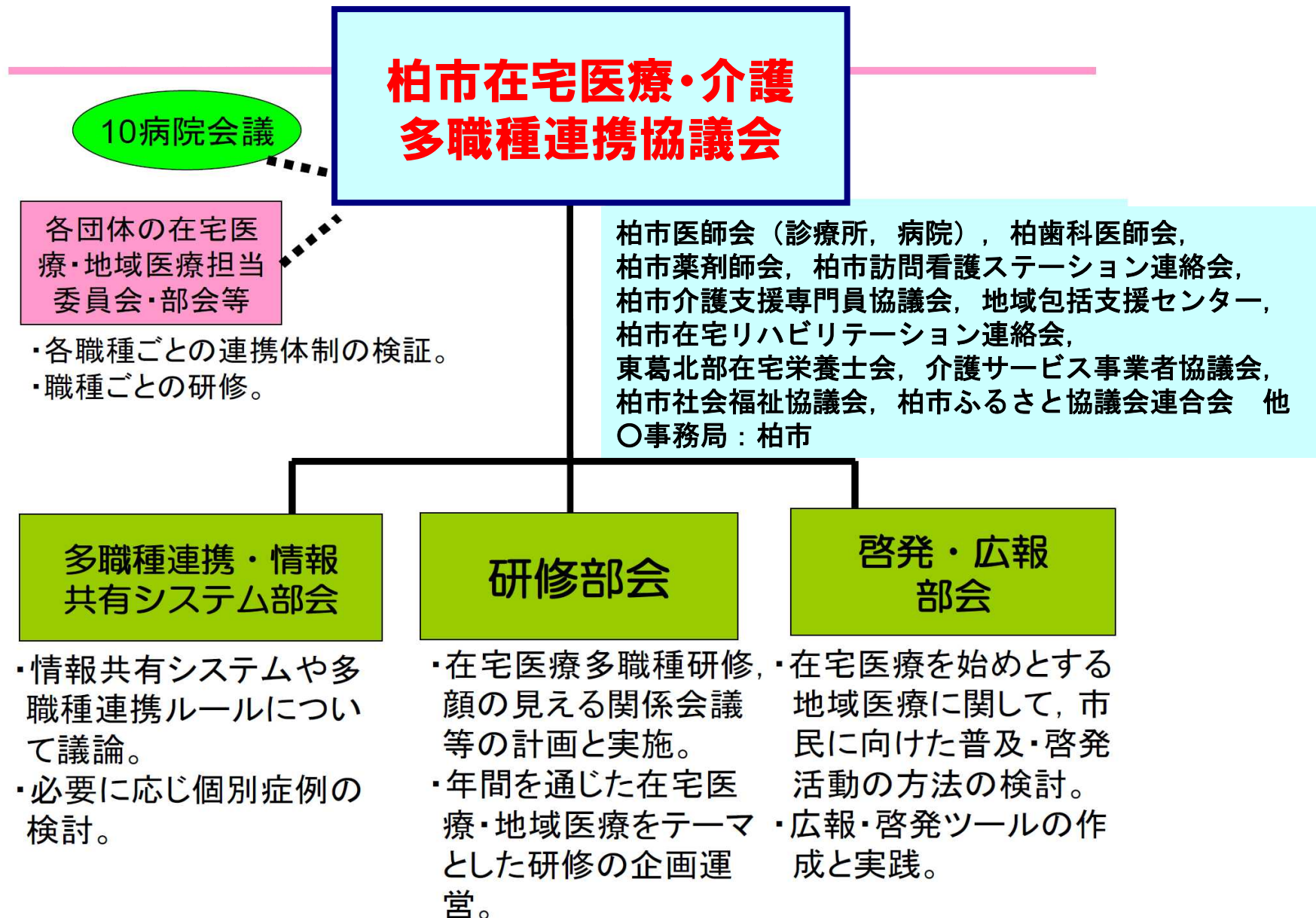
柏地域医療連携センターの機能

- 患者が病院から在宅に戻る際の調整支援機能
主治医・副主治医, 多職種の推薦
- 医師・多職種による在宅医療・看護・介護のコーディネート機能
- 在宅医療に係る主治医及び副主治医の研修機能
- 市民相談・啓発機能

柏地域医療連携センターの相談状況

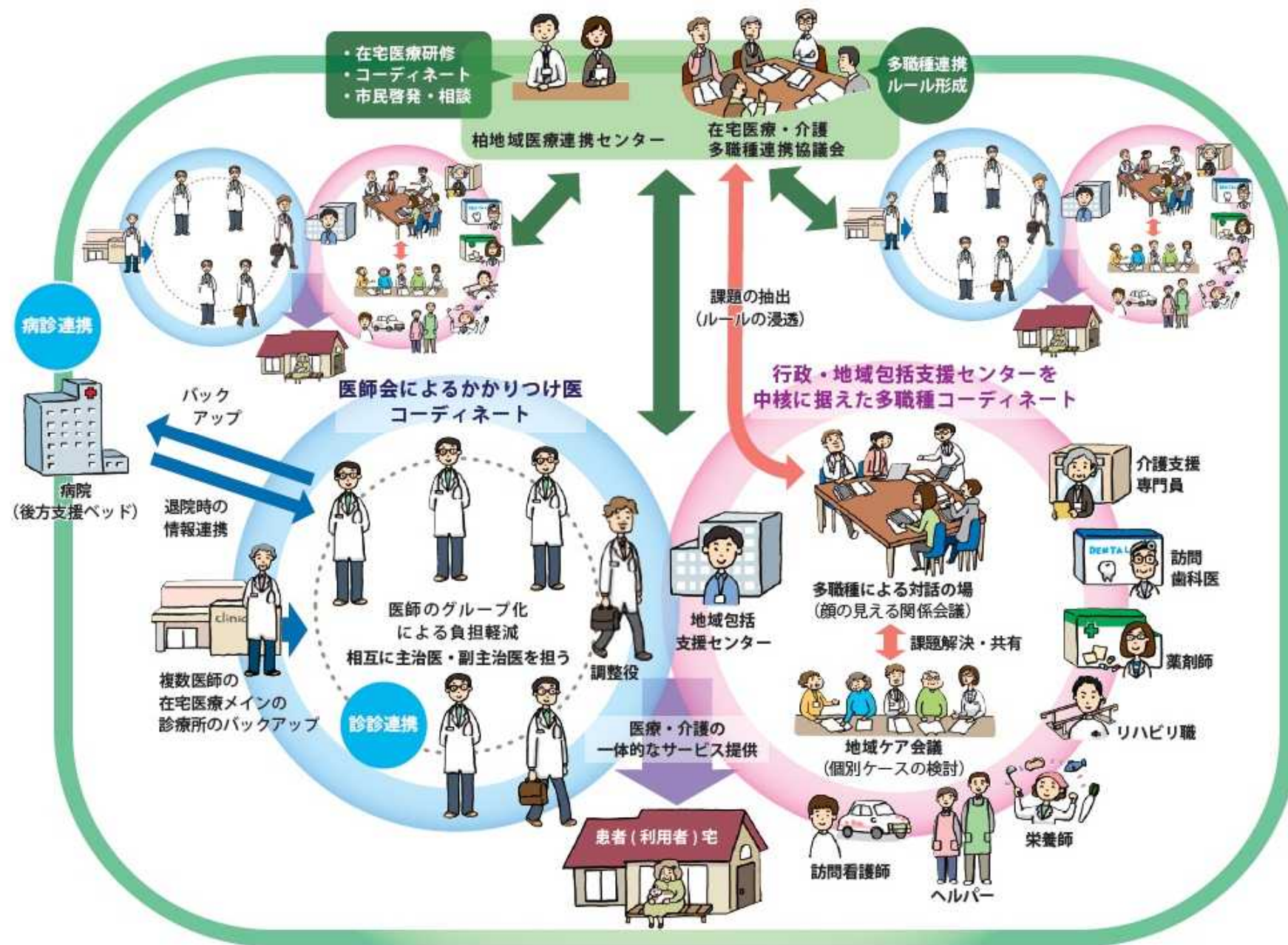
- 相談件数：月平均は、実数50.55件・延数60.09件(H26実績)
- 相談内容：「受診・受療に関すること」が最も多く 23%
「在宅医療に関すること」が次で 22%

在宅ケアシステムの推進体制



※ 在宅医療・介護多職種連携柏モデルガイドブック より

柏市の在宅医療・在宅ケアシステムのイメージ図

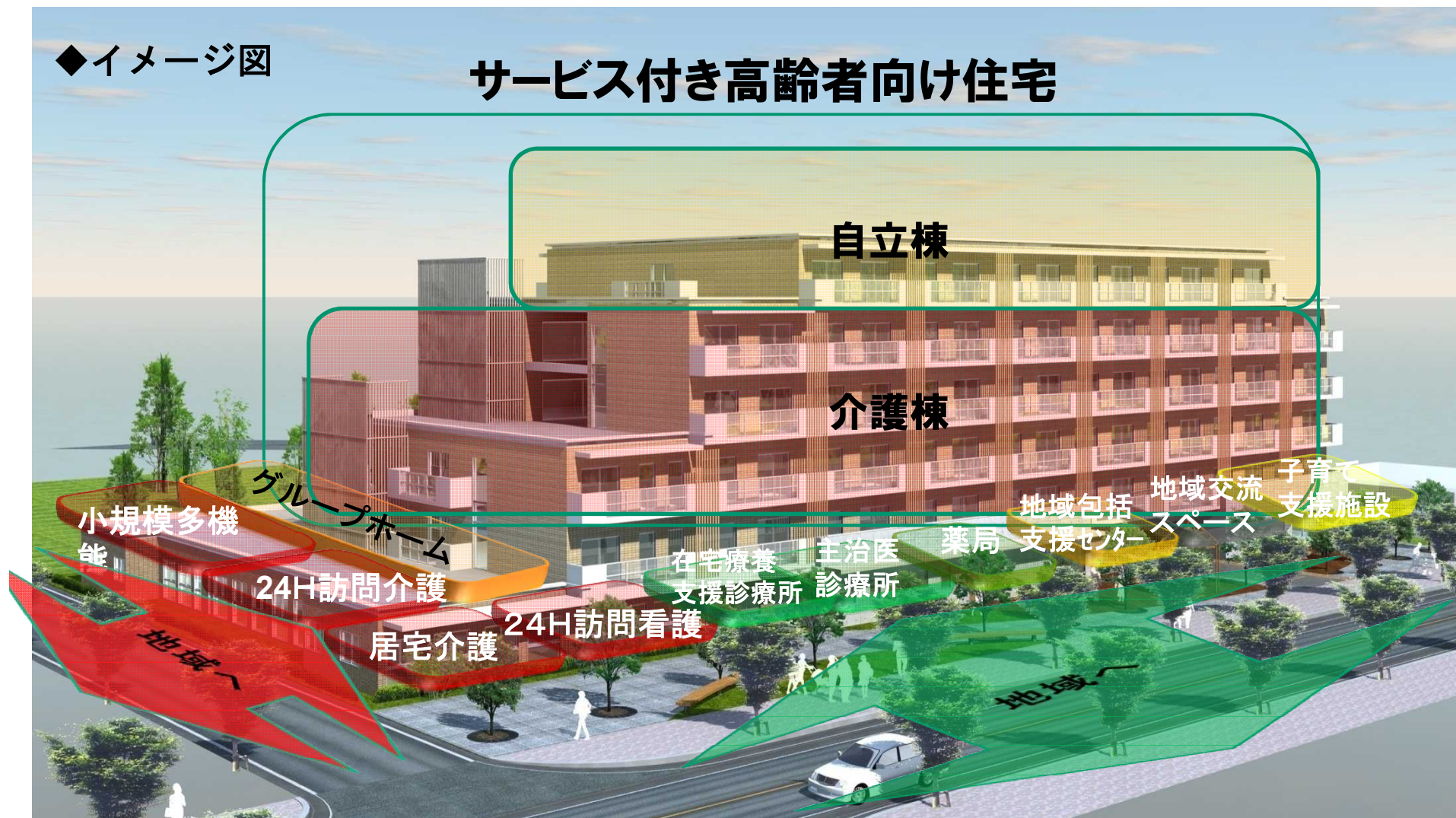


地域包括ケアのモデル拠点の整備

サ高住に様々な医療・介護サービスを組み合わせたモデル拠点を
豊四季台団地に整備(URによる公募)。【平成26年5月完成】

◆イメージ図

サービス付き高齢者向け住宅



※本図は、実施設計前のイメージであり、完成後の建物とは異なる場合があります。

提供：株式会社学研ココファン

ココファン柏豊四季台 事業概要

【土地建物概要】

- 所在 / 千葉県柏市豊四季台一丁目807番1の一部、937番75の一部
- 敷地面積 / 3,500.03㎡ ●延床面積 / 6,761.82㎡
- 構造規模 / 鉄筋コンクリート造6階建

【事業概要】

事業名		事業者
賃貸住宅	サービス付き高齢者向け住宅（計105戸）	学研ココファン（賃貸管理） 長岡福祉協会（基本サービスの提供）
	グループホーム（認知症対応型共同生活介護）	学研ココファン
介護・看護	小規模多機能型居宅介護事業所	長岡福祉協会
	定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所	長岡福祉協会
	訪問介護事業所	長岡福祉協会
	居宅介護支援事業所	スギメディカル
	訪問看護ステーション	スギメディカル
	地域包括支援センター	柏西口地域包括支援センター
医療	在宅療養支援診療所	くわのクリニック
	診療所	豊四季診療所
	薬局	豊四季ファーマシー
子育て	子育て支援施設（学童保育など）	未定
多世代交流スペース		

学研を中核に
他の事業者と
連携して運営

豊四季台地域等、近隣にお住まいの方は、サービスを利用できます。

切れ目のないサービスを提供

3. 生きがい就労の創成

高齢者の新しい活躍の場「生きがい就労」とは

背景

団塊の世代の大量退職(地域で活躍場所があるか)
65歳以降の健康寿命は長い(男性18年, 女性23年)

現状

生 計

経営者・自営業者・定年なし企業

起業

シルバー人材センター等

既存の働き方では、リタイヤ層のニーズに応えきれない

地域貢献活動(町会, ボランティア, NPO等)

サークル活動, サロン, 老人会

敷居が高く、利用は一部の高齢者

生きがい

65歳

提案

リタイヤ層のニーズを満たす居場所・活躍場所は何か？

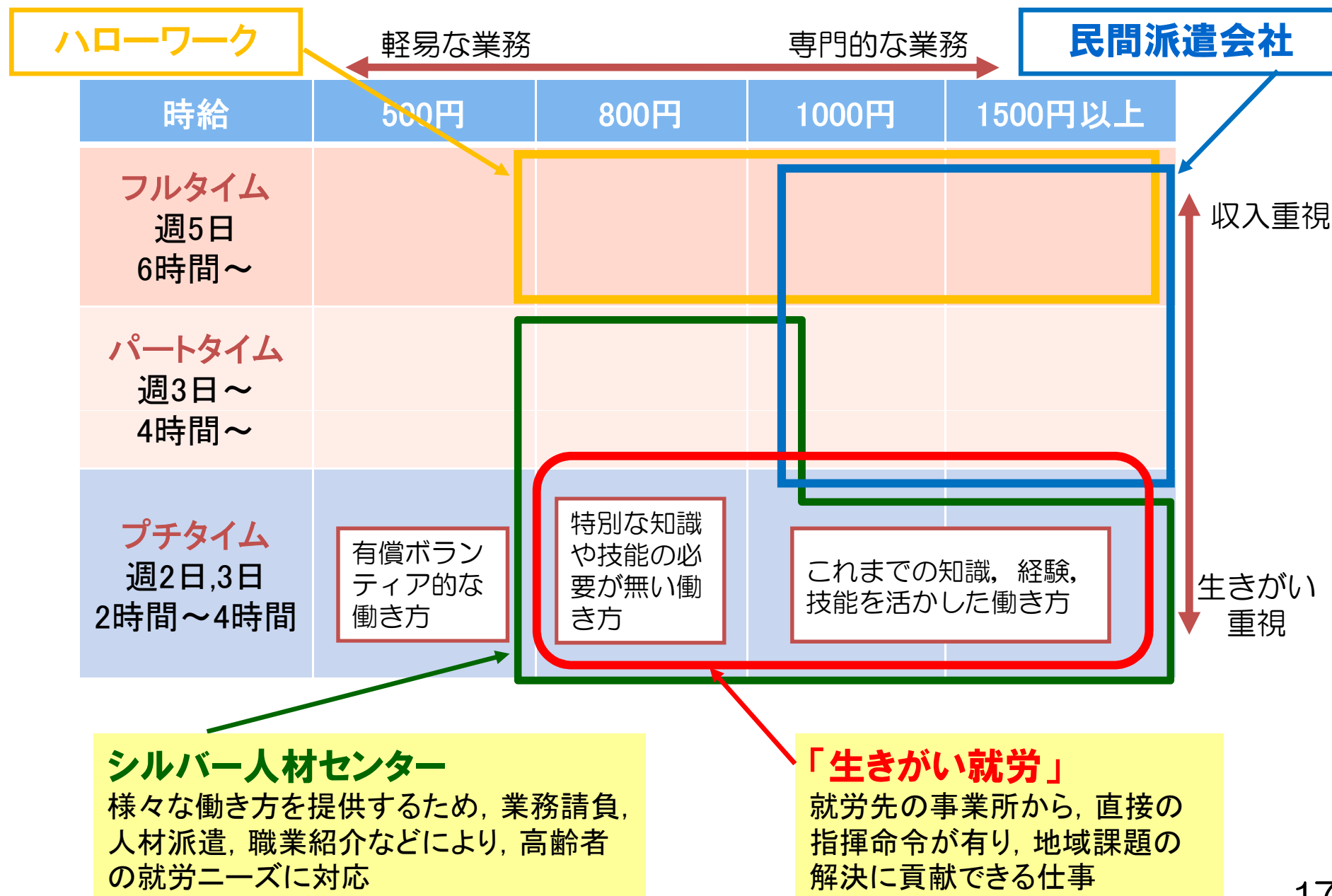
慣れ親しんだ生活スタイル(働く)



地域貢献・無理ない範囲・人との関わり(生きがい)

生きがい就労

生きがい就労の位置付け（セグメントイメージ）



生きがい就労オペレーション・プロセスの概要

仕事の開拓

- 地域課題(人材不足)の解決
- 若者の仕事を奪わない
- 自転車で通える範囲

就労希望高齢者を募る

- 市広報紙 など
- 地域住民宅へのポストイン

就労セミナーで学習

2011(平成23)年11月～2014(平成26)年3月
計8回延べ591名参加



就労

各事業者で面接

就労体験・見学会

高齢者が働く主な事業

※H26.3月末時点(H27.3月末延べ人数256名)

事業統括組織



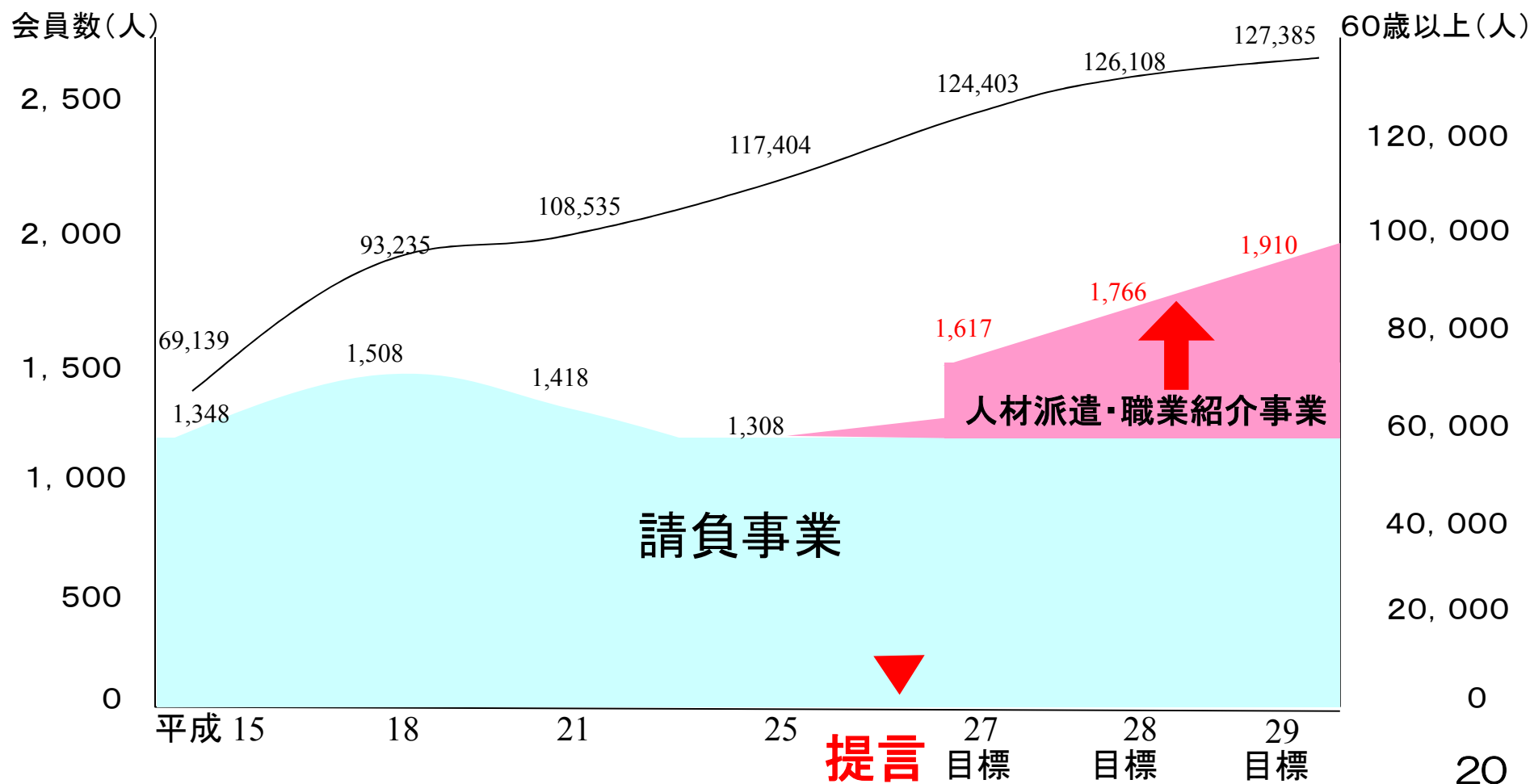
シルバー人材センターへの業務継承

【狙い】 ■事業の安定化と全市展開

【課題】 ■請負事業(単純労務)が多いため、高齢者は増加していても、会員数が低迷

【対策】 ■平成25年10月からシルバー人材センターにジョブコーディネーター2名を配置
生きがい就労事業の引継ぎと高齢者の就労ニーズにあった多様な働き方を開拓

■平成27年3月、柏市長が数値目標を含めた提言書を提出(人材派遣・職業紹介の拡充)



豊四季台地域での地域包括ケアシステム

「在宅医療」と「生きがい就労」により、地域包括ケアシステムを具現化



豊四季台モデルは、順次、市内全域に展開！

■ 将来の豊四季台地域のイメージ

○ くるみ幼稚園



○ 植物栽培ユニット



○ サービス付き高齢者向け住宅

○ 24時間対応の在宅医療・看護・介護サービス



地域の中に多様な活躍の場があり、
いつまでも元気で活躍できる

在宅で医療、看護、介護サービスが受ける体制が整い、
いつまでも在宅で安心して生活できる

地域拠点ゾーン

公園

商業・生活利便
施設ゾーン

○ 柏地域医療連携センター



○ コミュニティ食堂



四季の道

○ 特養 柏こひつじ園



4. プロジェクトの成果を活かした今後のまちづくり 高齢者の住まいに関する課題

- 特別養護老人ホームの待機者が約1,100人
- サービス付き高齢者向け住宅はここ数年で急増しているが、結果的に特養待機者の解消につながっていない。
⇒ 高齢者策と住宅施策が連動していない

その理由は、

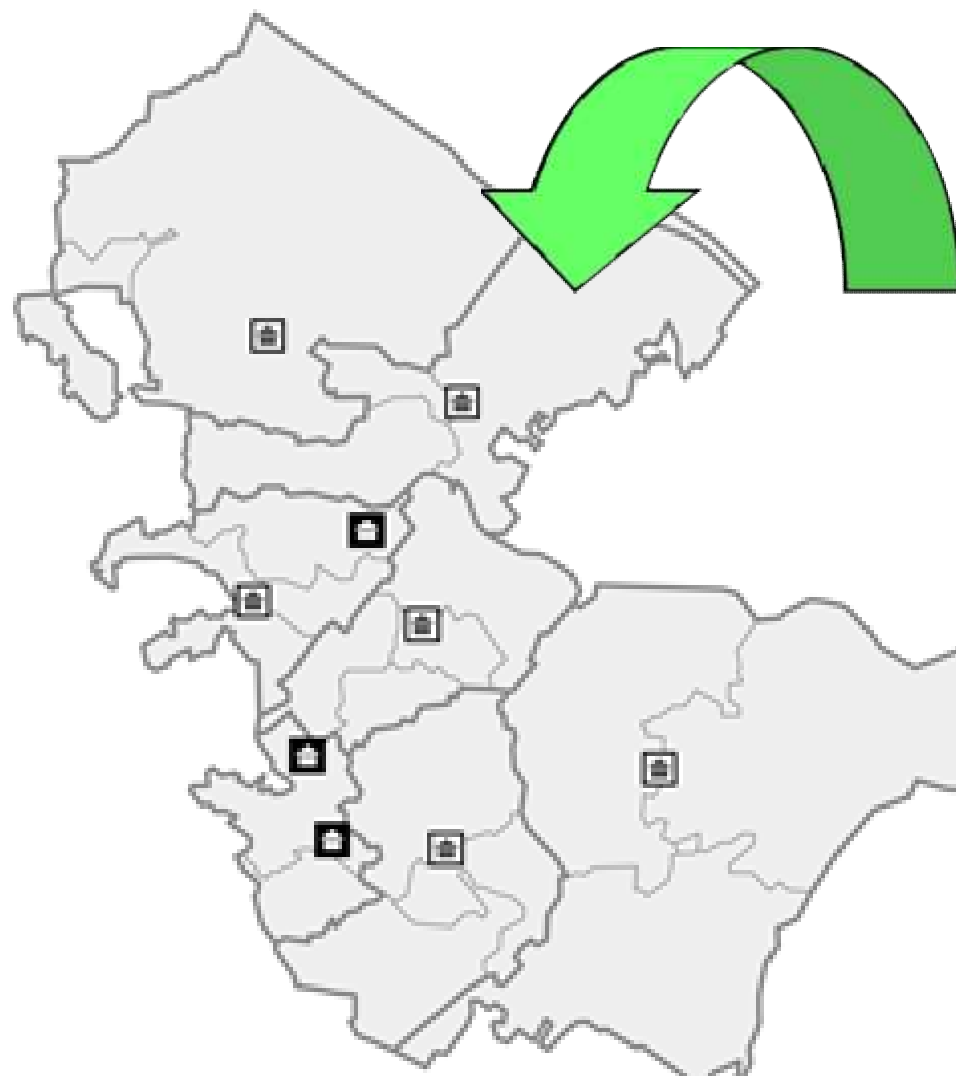
- 多くのサービス付き高齢者向け住宅は、デイサービスを併設する程度の形態であり、要介護1～2の入居者が中心
⇒ 中・重度高齢者(要介護3以上)への対応が不十分
- 入居費用が高い(月14～19万円) ※ 家賃,共益費,食費 等
⇒ 中・低所得高齢者への対応が不十分

そこで、

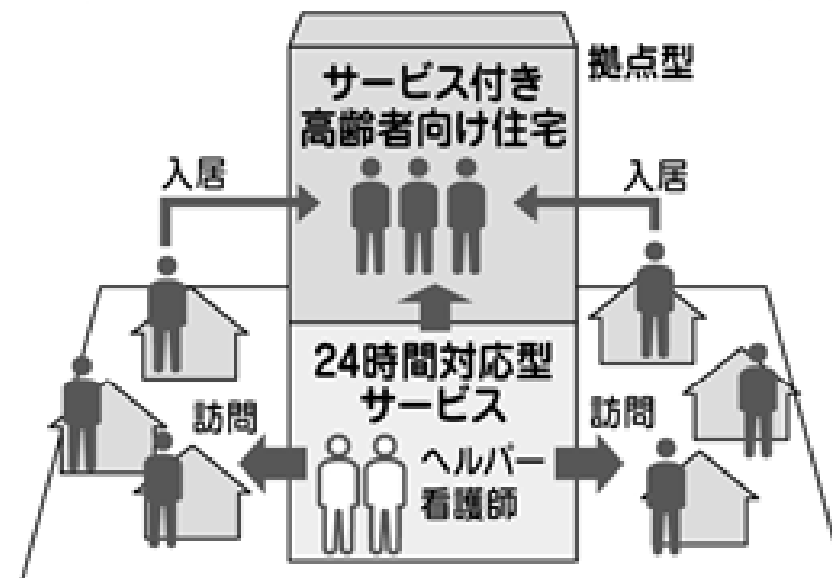
- 今後の整備の方向案(第6期介護保険事業計画に記載)
 - ・ 中重度者にも対応するため、豊四季台をモデルとした「拠点型」サ高住を整備 (市内5～6箇所)
 - ・ 中・低所得者に対する入居支援策を検討 (家賃補助 等)

《参考》拠点型サービス付き高齢者向け住宅等の展開

市内7つの日常生活圏域毎に、拠点型サ高住の整備を検討



「拠点型」サービス付き高齢者向け住宅



サービス付き高齢者向け住宅に併設の24時間対応型サービスを地域展開することで、近隣の在宅高齢者を支える拠点となる。

■ 第5期 整備済み

□ 第6期～7期 整備予定

出典：東京大学高齢社会総合研究機構『高齢者が支援を受けながらすみ続けられるサービス付き高齢者向け住宅など、高齢者の住まい方とその支援方策等に関する調査研究事業報告書』より一部加工

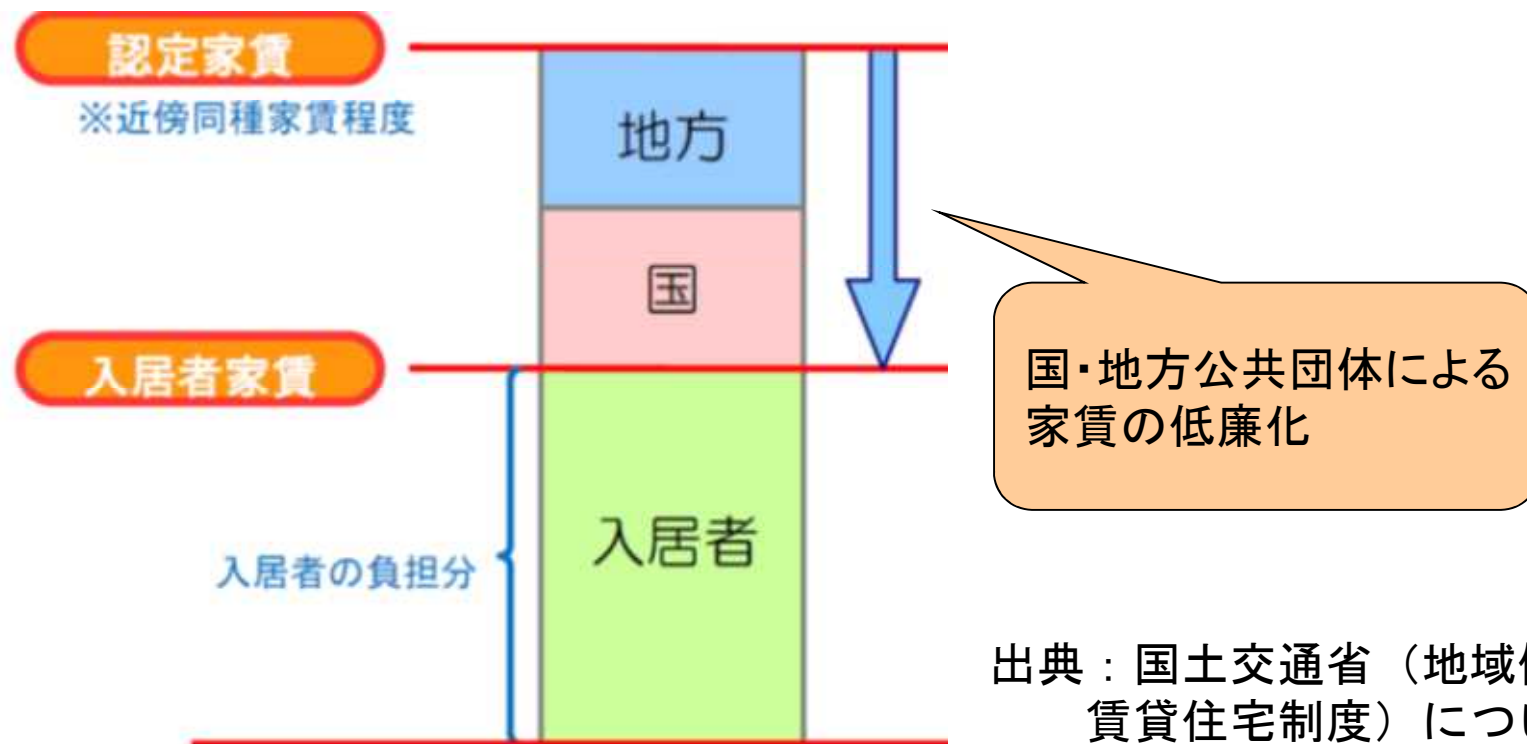
※ 詳細は、第6期柏市高齢者いきいきプラン21（P64～）

第2部 第3章 第2節『高齢者の住まい・住まい方支援』をご覧ください。

《参考》地域優良賃貸住宅制度を活かした家賃助成

《内容》

中低所得者がサービス付き高齢者向け住宅に入居できるよう、国の住宅施策を活用して、所得に応じた家賃補助制度を検討します。

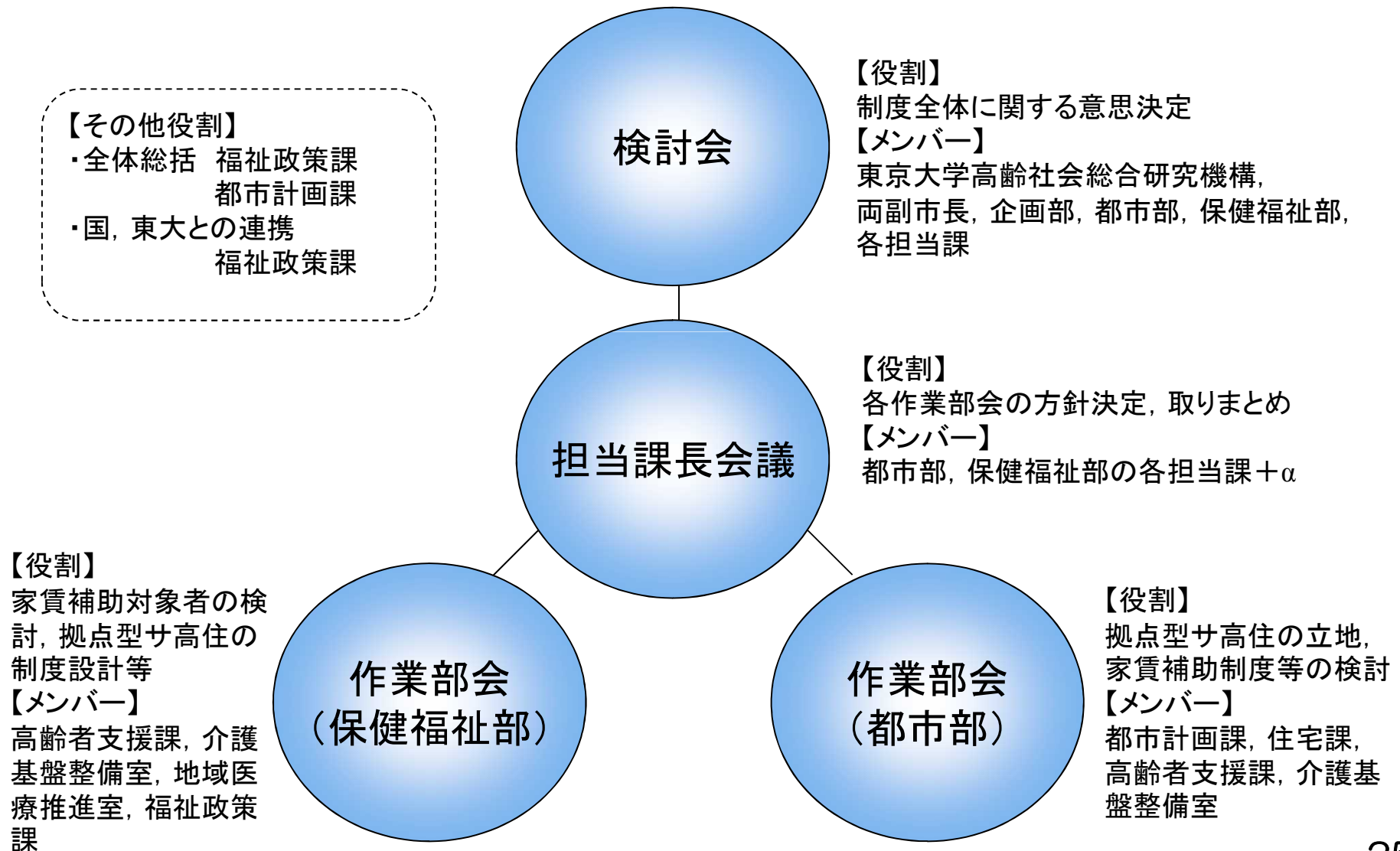


※ 第6期柏市高齢者いきいきプラン21（P64～）

第2部 第3章 第2節『高齢者の住まい・住まい方支援』をご覧ください。

拠点型サ高住の整備に向けた検討体制

- 事業を完遂するためには、福祉部局と都市部局の連携が必須
効率的に事務を進めるため、検討・作業体制を構築



拠点型サ高住の整備に向けた検討内容

■ 拠点型サ高住の新設に当たっては、各種データを分析して地域や関係団体からヒアリングを行い、その地域に必要な整備数と在宅ケアサービスを検討する



住宅施策と福祉施策が連携した拠点型サ高住

第6期計画 掲載ポイント

- ① **特養整備量の4割**を「拠点型サ高住」に振り替え ⇒ 6～7期の6年間で**合計280床**を整備予定
- ② 24時間の医療・看護・介護連携体制を構築 ⇒ 定期巡回随時対応を軸に地域に適したサービス
- ③ 豊四季台の成果から**地域包括ケアの拠点性**を付与 ⇒ 拠点型サ高住周辺の在宅生活を支援

目 的

特養待機者の解消と在宅生活を支える拠点整備を両立

高齢者向け 住宅の課題

- ① サ高住は急増したが、結果的に特養待機者の解消に繋がらず
- ② 多くのサ高住は、通所介護＋訪問介護を併設で、要介護1～2の入居者が中心
- ③ 入居費用が高い(月額14～19万円＋介護費用)

そこで

高齢者住宅施策を介護保険事業計画に掲載

掲載の内容

- ① 中・重度高齢者に対応するため、豊四季台をモデルとした
「拠点型」サ高住を整備 (市内5～6箇所 合計280床を拠点型サ高住に)
- ② 中・低所得高齢者に対応するため、
入居支援策を検討 (地優賃(国庫補助)を活用した家賃低減事業を併用)

スケジュール

- ① 昨年度からこれまで、副市長を筆頭に都市部、保健福祉部が検討会を3回実施
- ② 今年度は8月に事業構想・予算の検討を行い、11月末に実施体制を検討予定
- ③ 早ければ今年度末までに制度設計を行い、来年度から事業者公募等を行う予定

現在の検討課題

- ① **未利用公有地に拠点型サ高住を誘致**することを検討中
- ② 家賃補助の基準として、要介護度・収入等の基準を設けられるか検討中
⇒ **地域優良賃貸住宅制度の補助対象となるかを国交省に問い合わせ中**
- ③ 家賃補助により特養待機者をサ高住へ誘導させるため、対象となる市民の所得・世帯・介護サービス利用状況を精査
- ④ 事業実施に必要な人員・予算の精査

立地の検討 ≪人口集中地区と市街化区域≫

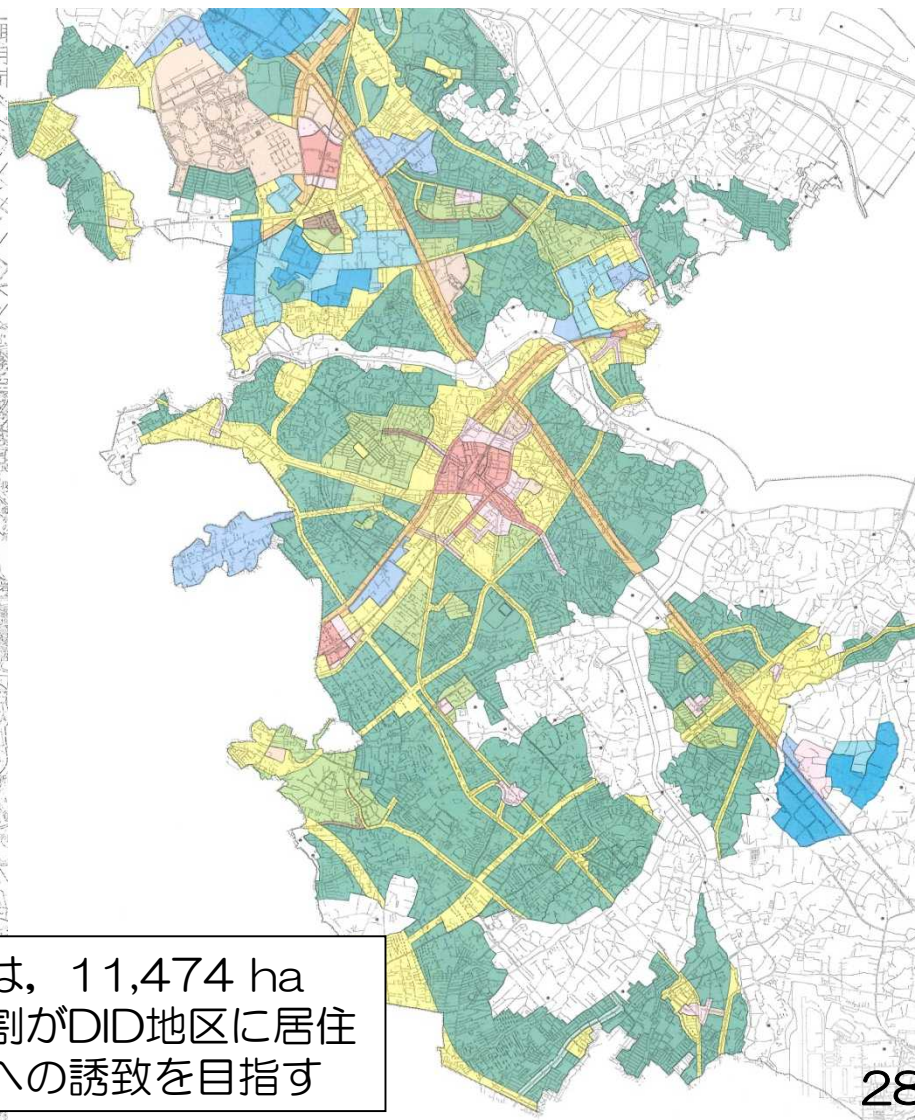
柏市は、DID面積割合は全市域の34.6%，市街化区域の72.7%

柏市人口集中地区境界図（DID面積3,967ha）

出典「平成22年国勢調査報告 第2巻人口等基本集計結果 その2都道府県・市区町村編」

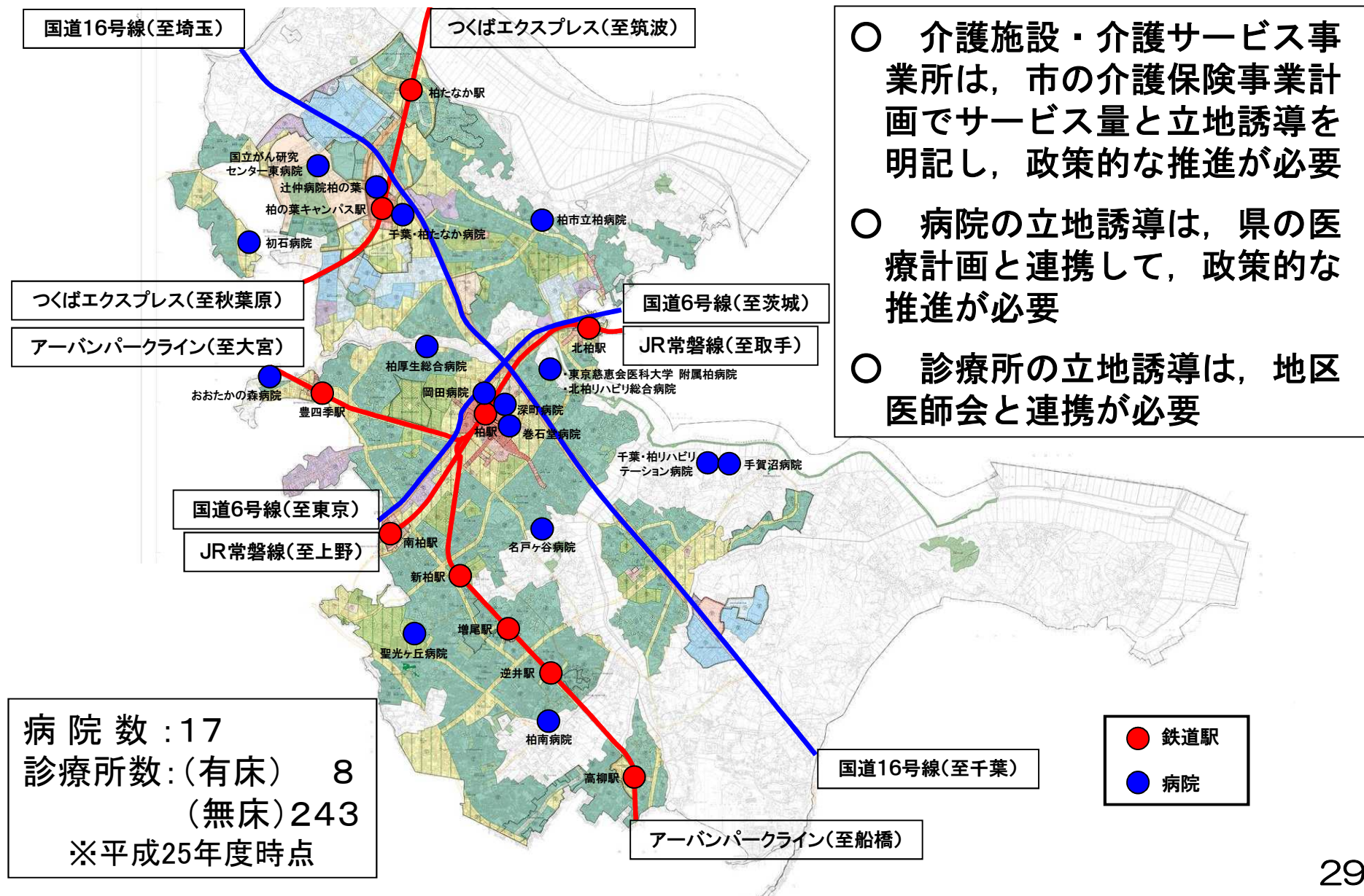


柏市都市計画図（市街化区域面積 5,453ha）



立地の検討 ≪医療・福祉サービスとの連携≫

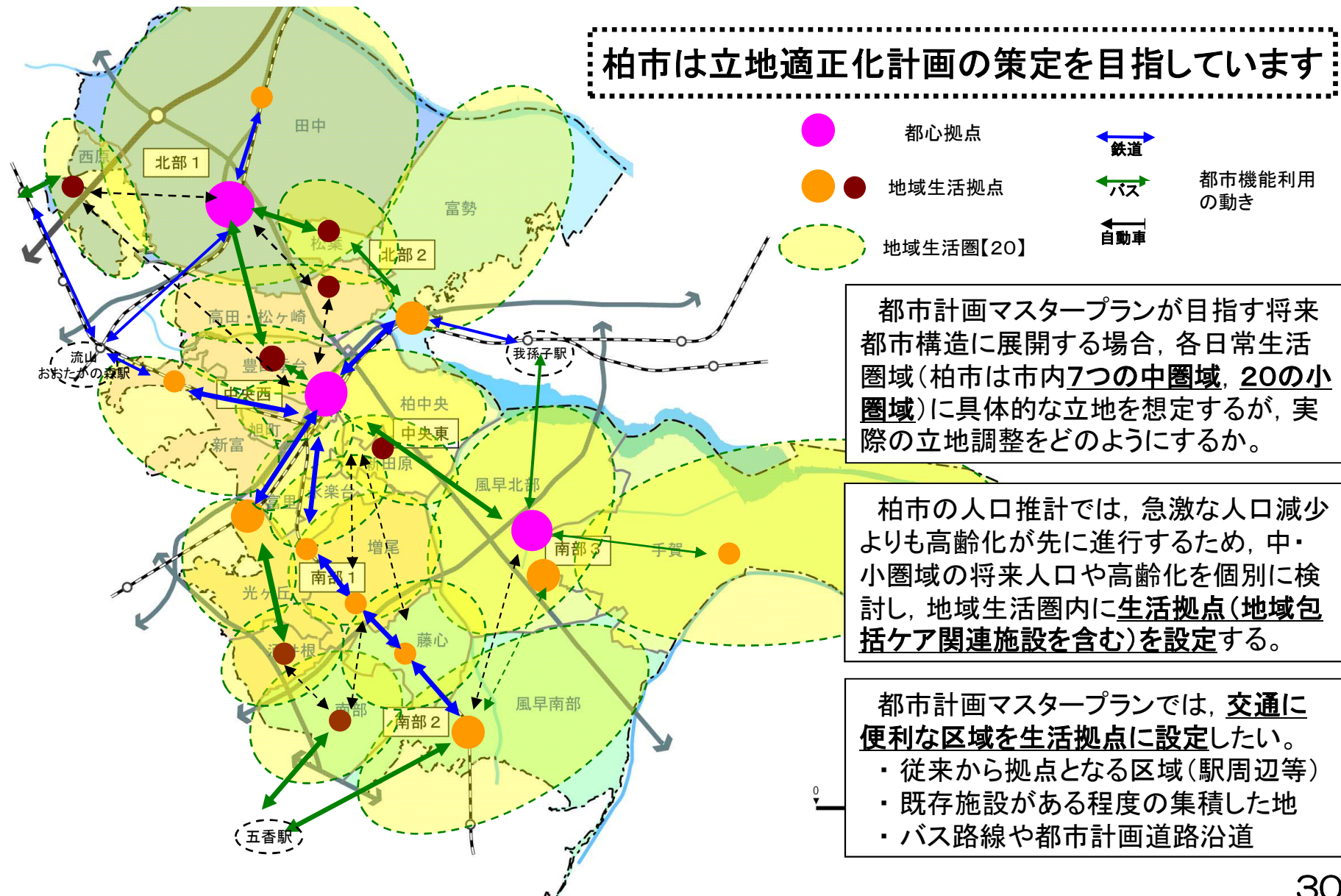
● 医療資源(病院)の位置図



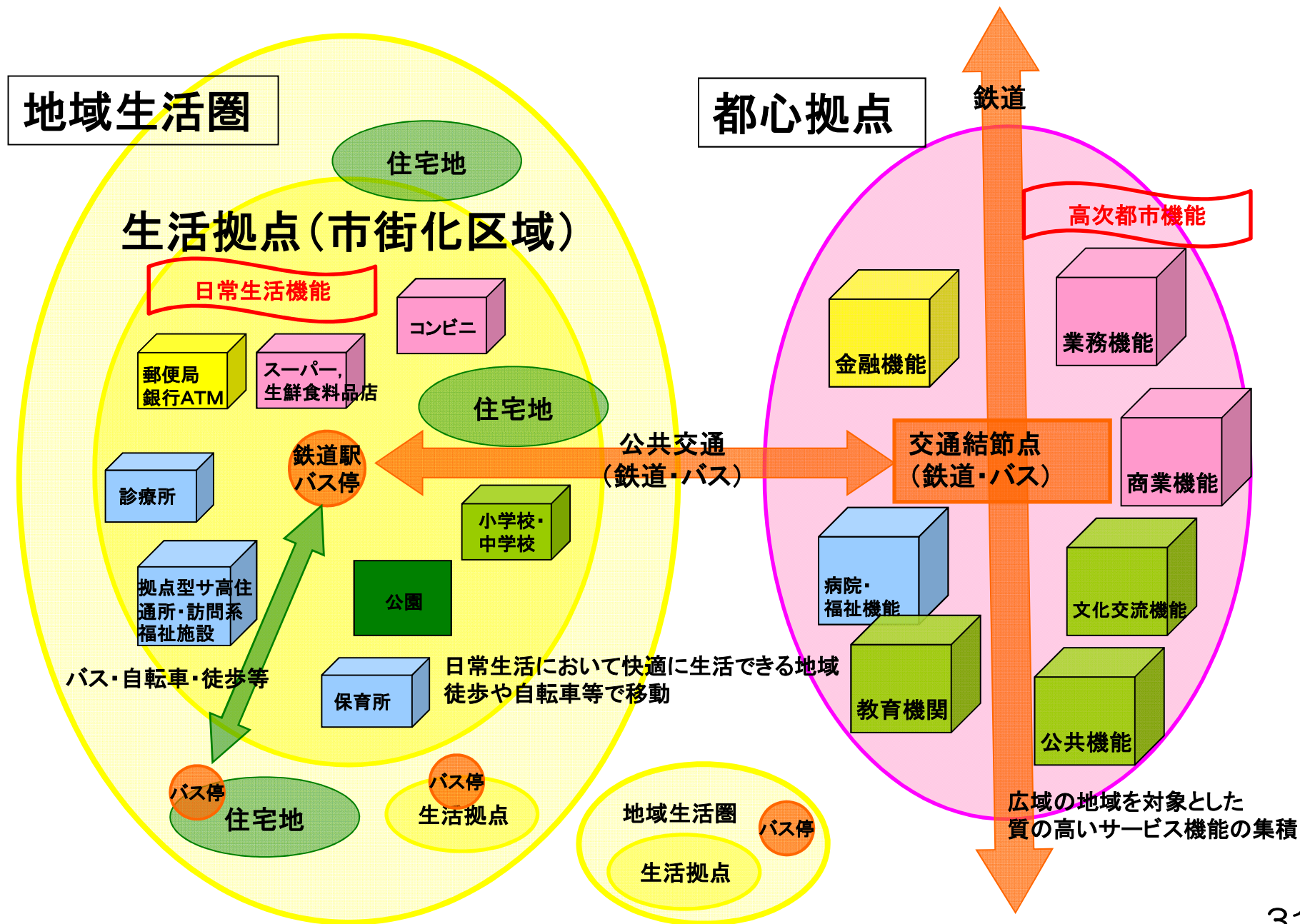
《参考①》目指す都市構造イメージ（検討中）

● 都心拠点と地域生活圏が連携したまちづくり

柏市は立地適正化計画の策定を目指しています



≪参考②≫都心拠点と地域生活圏の概念図



まとめ

■ これから『まちづくりの課題』は、単独部署で解決できない！

● 柏市の事例（医療・福祉とまちづくりの連携）

【before】

保健福祉部（介護保険事業計画）

- ・ サービスの量を検討
- ・ サービスの質を追求

都市部（都市マスタープラン）

- ・ 事業者の立地を検討
- ・ 地域のバランスを追求

【after】

課題を共有して、必要に応じた施策の検討会を実施

○資料P25の様に、関係各課の得意な分野を活かして様々な角度から検討・追求

● 連携の必要性

防災、商工業、交通、環境、教育、スポーツ、文化 等、全てが「まちづくり」と連携する

● 連携の鍵

- ・ 課題の共有（『まちづくりの課題』は、ほとんどが多部署に関わる内容）
- ・ コミュニケーションの形成（部局間の人事交流も有効な手段）